

評価基準、観点、視点に関する意見

- 内容の重複があった

3. 歯学教育課程の内容・方法・環境
【観点3-3-1】 歯科医療人を養成するための教育施設・設備が整備されていること

4. 患者への配慮と臨床能力の確保
【観点4-1-6】 臨床実習に必要な施設・設備を整備していること。

評価基準、観点、視点に関する意見

- 内容の重複があった

【観点3-2-5】 卒業時の臨床能力が明示され、それに基づいた診療参加型臨床実習が整備し、実施することにより、卒業時の基本的診療能力を担保されること。

【観点4-2-2】 卒業時の臨床能力が明示され、診療参加型臨床実習の終了時に、習得した能力を評価するシステムを有し、臨床能力を担保していること。

● 根拠資料の準備について

根拠資料を準備する際の感想

- インターネット上の資料呈示の方法について検討の余地がある（紙媒体も必要？）
- 年度替わりのHP更新があり、URLのリンク切れが多発する事態となった

（記載時の注意）

・ HP上に掲載されている資料の場合は、単に大学のHPのURLだけでなく容易に検索できるようなURLを示して下さい。

● 現地調査について

九州歯科大学 現地調査・検討委員会 日程

10月8日(木)

18:00 事前打ち合わせ会議

10月9日(木)

9:00 大学到着および挨拶
9:10 自己点検評価書内容の確認と意見交換（関係教員）
・ 教育の理念及び目標
・ 学生の受け入れ
・ 成績評価と卒業認定
・ 教員組織
11:30 評価者チーム打ち合わせおよび昼食
・ 評価書原案の修正、加筆
13:00 教育施設、学生臨床実習現場の視察
・ 臨床実習、シミュレーション関係
・ 講義室、実習室、図書室など 出来るだけ分散して幅広く視察
15:00 休憩
15:30 臨床実習関係教員との面談
・ 臨床実習の総経、責任者、実習指導者
16:30 学生との面談（1～4年生） 各学生3～4名
17:15 学生（6年生）および研修医との面談
18:30 一日のまとめ
・ 評価書原案の修正、加筆
21:00 終了予定

10月10日(金)

- 8:20 大学到着
- 8:30 5年生ミーティング視察
- 9:00 自己点検評価書内容の確認と意見交換(関係教員)
 - ・歯学教育課程の内容・方法・環境
 - ・患者への配慮と臨床能力の確保
 - ・点検・評価
- 11:00 評価者チーム打合せおよび昼食
 - ・評価書原案の修正、加筆
- 13:00 教員との面談
 - ・若手教員、シニア教員、基礎・臨床教員等の混合 合わせて10名ほど
- 14:00 大学院生、ポスドク等との面談 合わせて10名ほど
- 15:00 大学責任者との意見交換
 - ・訪問調査の総括
 - ・トライアル評価項目への改善意見
 - ・認証評価への要望など

公立大学法人
九州歯科大学

九州歯科大学 現地調査 2014年10月9~10日

公立大学法人
九州歯科大学

現地調査に関する感想

- 適度な緊張感であった
- 時間配分を考慮することによって、より効率的な調査が可能と思われた
- 臨床研修医への聞き取り調査の意図が不明瞭(とくに他大学出身者への聞き取り)
- 大学院生への聞き取り調査の意義が不明瞭(とくに他大学出身者への聞き取りや、大学院教育、経済的援助に関する質問など)

公立大学法人
九州歯科大学

評価結果(評価書)の受理

公立大学法人
九州歯科大学

九州歯科大学評価書
(最終案)

平成26年12月

歯学教育認証評価検討WG(認証評価実施委員会)

公立大学法人
九州歯科大学

1. 教育の理念及び目標

【基準1-1】
歯学教育における教育の理念および目標が適切に設定され、かつ明確に示され、公表されていること。

【観点1-1-1】大学・学部理念を踏まえ、かつ国民の求める歯科医師養成を行うという教育目標を設定していること。

【観点1-1-2】教育の理念、目標を教職員および学生に周知し、かつ社会に公表していること。

【観点1-1-3】教育の理念及び目標の適切性について定期的に検証を行っていること。

【観点1-1-4】教育の理念および目標が、当該大学の教育を通じて達成されていること。

<分析状況>

【観点1-1-1】
教育理念として「高度な専門性を持った歯科医療人の育成」を掲げている。厚生労働省から「国民のニーズに対応できる歯科医師を確保」するための社会的要請が強まっている「高齢者や全身疾患を持つ者等への対応」や「口腔と全身との関係」などから、教育研究目標として「新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成すること、および「歯科保健医療を通じて社会に貢献する医療人を育成すること」と規定している。また、法人中期目標においても、「高齢者の治療や健康管理指導ができる能力」を育成することを規定している。

カリキュラムポリシーでは「口腔の健康と全身の健康との関連性を理解する能力を養成するため、一般基礎分野および隣接医学分野科目を設置すること」を規定し、教育目標では、「新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成すること」を掲げ、個性豊かな歯科医師の養成も目指している。加えて、「歯科保健医療を通じて社会に貢献する医療人を育成すること」も規定し、歯科医療のみならず、保健分野でも活躍できる多様性を持った歯科医師の養成を図っている。

これらのことから、大学・学部理念を踏まえ、かつ国民の求める歯科医師養成を行うという教育目標が適切に設定されていると判断する。

公立大学法人
九州歯科大学

教育目標に掲げる「新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成する」ことについては、歯科医療人育成学、臨床推論学を開講し、履修させることにより、自己解決能力を有する創造的医療人を育成していると考えられる。また、全国共用試験（CBT および OSCE 試験）に合格した学生を臨床実習に携わらせ、診療参加型臨床実習終了時にアドバンスド OSCE を実施し、一定の臨床能力を担保している。さらに、歯科医師国家試験では、第 106 回歯科医師国家試験における新卒者の合格率も 96.2%と全歯学部（平均 80.4%）中第 2 位である。また平成 25 年度における標準修業年限での国家試験合格率は 75.8%であり、国立大学歯学部平均の 76.8%とほぼ同程度であり、全国歯学部の平均 59.7%を大きく上回っている。平成 25 年の 6 年生における歯科医師臨床研修マッチ率も 100%である。加えて、国、都道府県、政令指定都市の行政機関に多数の卒業生が勤務するなど、幅広い領域で活躍する歯科医師を輩出しており、個性的で多様性を持った歯科医師を養成している。

このように、教育の理念および目標が、教育を通して達成されていると判断する。

基準 1 の優れた点及び改善を要する点等

【優れた点】

- 大学の理念及び目標等の周知と公表により、高い効果を得ているとともに、教育に関する大学の理念に関する定期的な検証を実施している。
- 新卒者の歯科医師国家試験合格率、歯科医師臨床研修マッチ率、標準修業年限での国家試験合格率が全歯学部平均を大きく上回っている

【さらなる向上が期待される点】

- 大学の理念に関するアンケート調査における対象項目が必ずしも十分ではない。

【改善を必要とする点】

なし

《総括》歯学教育認証評価トライアル受審

- 自校の現状を見つめ直す良い機会となった
- 指摘事項を『外圧』として活用し、学内の教育改革を推し進める追い風として利用したい（学部長として）
- 認証評価の結果をどのような形で公表し、社会に対する説明責任をどう果たすかという視点での議論が必要と思われる

。ご静聴有難うございました

(4) グループ別セッション

平成27年度 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ グループ別セッションテーマについて

1. 背景

- ・高齢化の進行やグローバル化により医療ニーズが多様化した現在において、医師や歯科医師の養成をめぐる諸外国の動向も踏まえて、日本の医学・歯学教育の課題を認識するとともに課題解決に向けた対応策を検討し、実行することが求められている。国民が医学部、歯学部を卒業する者に期待する能力は何かを念頭に、各大学が学生に身に付けさせるべき学習成果をどのように設定し、そのために必要な教育の質をどのように確保し、保証していくのか、さらに、どのように継続的な改善を行い、最終的には大学ごとの多様で特色のある教育に発展させることができるかについて、現在の課題や必要な取り組みを検討する。

(議論の進め方)

- ・各テーマについて、以下の点を議論。
 - ① 現状の取組、②課題、③今後の改善のための提言
- ・なお、各テーマの課題には、他のテーマの課題と重なる部分もありうる。

2. テーマ

(テーマ1) アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜の在り方

(課題)

- ・各大学の機能・特色を踏まえたアドミッションポリシーのもとに、各大学において養成すべき医師・歯科医師像を明確化することが必要。
- ・また、地域医療や研究、グローバル化に対応する人材を養成するための入学者選抜について、どのように考えるか。
- ・アドミッションポリシーについては、各大学の募集要項や面接の在り方等を検討する。また、地域医療や研究（特に基礎研究医）、グローバル化に対応する人材養成のために、地域枠や学士入学、海外留学生の受入れについてどのように考えるか、検討を行う。

(テーマ2) 統合教育を行うための入学時から卒業時までのトータルカリキュラムデザインの在り方・実践

(課題)

- ・本来、人体が様々な臓器を持ち、それらが複雑に関連するものである以上、医療系分野に係る教育は、それぞれに特化した断片的なものではなく、水平的・垂直的に各分野（基礎と臨床、臨床分野間、医科と歯科等）が統合されていなければならない。それぞれの大学が持つ学内の教育資源（教員や教育施設・設備など）を用い、医学・歯学を中心として各大学の特徴ある統合教育を実践するための入学時から卒業時までのトータルカリキュラムデザイ

- ンについて検討する。
- ・加えて、教養教育のあり方、位置付け（医師養成と教養教育の関連性も含む）や、アクティブラーニングや研究倫理教育についてどのように行うべきか検討する。
 - ・また、転学・転学部や留年・退学者（成績不良者のみならず、不正行為を行った者、コミュニケーション障害などの疾患を有する者を含む）へどのように評価・対応・支援を行うべきか検討する。

（テーマ3）臨床実習の改善・充実

（課題）

- ・医師・歯科医師としての態度の涵養や診療能力の確実な養成のためには、各大学が持つ教育資源を利用し、学習段階に応じた段階的な臨床経験を積むことが必要である。
- ・臨床実習終了後に学生が獲得すべき臨床能力を担保するために何を改善すべきか（週数、内容、環境整備等）。また、臨床実習中及び臨床実習修了後の学生をどのように形成評価を行うか。
- ・学内外の臨床実習を行う教育資源（IGTを含む）をどのような目的を持って活用するか、その施設等においてどのような目標を設定し、どのように臨床実習を行っていくべきかなど質の高い臨床実習を実施していくに当たって生じる各種の課題について議論し、その改善方策について検討する。

（テーマ4）卒業生の質の確保

（課題）

- ・医療ニーズが多様化した現在では、各大学が養成する人材像や大学として果たすべき役割を定め、それらを踏まえた卒業時アウトカムに基づき教育を行う必要がある。
- ・このため、卒業時アウトカムを踏まえ、どのように卒業生の質を確保するのか、卒業試験やPOST-CC-OSCEとの関わり方、卒前教育から臨床研修に継続するシームレスなコンピテンシー設定等その評価についてどのように運営していくかを検討する。
- ・加えて、国家試験・初期臨床研修との連動を見据え、どのように卒前1年間で過ごすべきか検討する。

（テーマ5）分野別評価を通じたPDCAサイクルの確立

（課題）

- ・医学分野においては、医学教育分野別評価基準（平成25年7月公開、平成26年4月ver 1.3公開）を基に、我が国でも医学教育分野別評価（トライアル）が開始されている。歯学分野においても、歯科医師養成の教育内容が国際標準に比較して遜色のない水準であることを証明するため、認証評価基準を作成し、実際にトライアルとして複数大学で認証評価を実施し、歯学教育認証

制度の構築が求められている。

これを契機として、医学部・歯学部が総体として、評価に応じた教育の改善・充実のためのPDCAサイクルをどう確立していくかについて検討する。

（受審の意義、大学の強みや地域情勢を活かした独自の取組を含む教育目標（成果目標）の明確化、IRによる調査・分析データ等による的確な自己評価の実施、評価に基づく教育改革プロセスの確立、組織対応体制の構築、活用方法など）

平成27年度医学・歯学教育指導者のためのワークショップ グループ別名簿

○医科大学・医学部

(敬称略)

【テーマ1: アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜の在り方】

グループ	モデレーター	区分	大学名	氏名	役職	
① (1号館8F 演習室)	相馬 仁 (札幌医科大学医療 人育成センター 教 授)	国立	1 弘前大学	村上 学	教授(医学部医学科学務委員会委員)	
			2 山梨大学	秋山 真治	教授(副学部長)	
			3 香川大学	今井田 克己	医学部長	
			4 九州大学	住本 英樹	医学部長	
		公立	5 和歌山県立医科大学	羽野 卓三	教授(学生部長)	
			私立	6 昭和大学	泉崎 雅彦	教授
				7 愛知医科大学	岡田 尚志郎	医学部長
				8 兵庫医科大学	中西 憲司	学長

グループ	モデレーター	区分	大学名	氏名	役職
② (1号館8F 演習室)	藤本 真一 (奈良県立医科大学 教育開発センター 教 授)	国立	1 山形大学	上野 義之	教授(教務委員長)
			2 筑波大学	高橋 智	教授(医学類副学部長)
			3 信州大学	池田 修一	医学部長
			4 岡山大学	大内 淑代	教授
		公立	5 横浜市立大学	齋藤 知行	医学部長
		私立	6 東邦大学	澁谷 和俊	教授(副医学部長)
			7 東海大学	坂部 貢	教授(副学部長・教育計画部長)

【テーマ2: 統合教育を行うための入学時から卒業時までのトータルカリキュラムデザインの在り方・実践】

グループ	モデレーター	区分	大学名	氏名	役職
③ (1号館8F 演習室)	鈴木 康之 (岐阜大学医学教育 開発研究センター 教 授)	国立	1 秋田大学	長谷川 仁志	教授
			2 三重大学	堀 浩樹	教授(副学長)
			3 高知大学	高田 淳	教授
			4 大分大学	中川 幹子	教授
		公立	5 京都府立医科大学	渡邊 能行	教授(副学長)
		私立	6 岩手医科大学	佐藤 洋一	教授(医学部副学部長)
			7 東京女子医科大学	三谷 昌平	教授(教務委員長)
			8 福岡大学	安元 佐和	教授(医学教育推進講座)

グループ	モデレーター	区分	大学名	氏名	役職
④ (1号館8F 演習室)	泉 美貴 (東京医科大学医学 教育学分野 教授)	国立	1 広島大学	木原 康樹	医学部長
			2 愛媛大学	石井 榮一	教授(副研究科長)
			3 鹿児島大学	大脇 哲洋	教授(教務委員長)
		公立	4 奈良県立医科大学	車谷 典男	医学部長
		私立	5 日本医科大学	伊藤 保彦	教授(教務部長)
			6 北里大学	三枝 信	教授(教育委員長)
			7 久留米大学	神田 芳郎	教授(教務委員長)
			8 産業医科大学	興梠 征典	教授(医学部教務部長)

【テーマ3: 臨床実習の改善・充実】

グループ	モデレーター	区分	大学名	氏名	役職
⑤ (1号館8F 演習室)	山脇 正永 (京都府立医科大学 大学院医学研究科 教授)	国立	1 旭川医科大学	千石 一雄	教授(学長補佐・教育センター長)
			2 大阪大学	和佐 勝史	教授(医学科教育センター長)
			3 鳥取大学	中村 廣繁	教授(副学部長)
			4 佐賀大学	小田 康友	准教授(地域医療科学教育研究センター長)
		公立	5 名古屋市立大学	吉田 篤博	准教授(カリキュラム企画・運営委員会委員)
		私立	6 杏林大学	赤木 美智男	教授(医学部教務主任)
			7 日本大学	藤田 之彦	教授(医学教育企画・推進室長)
			8 関西医科大学	木下 洋	特命教授(医学教育センター長)

グループ	モデレーター	区分	大学名	氏名	役職
⑥ (1号館8F 演習室)	大滝 純司 (北海道大学大学院 医学研究科医学教育 推進センター 教授)	国立	1 群馬大学	峯岸 敬	医学部長
			2 金沢大学	多久和 陽	医学部長、医学部長、医学科長、副研究科長
			3 岐阜大学	伊藤 八次	教授(教務主任)
			4 山口大学	白澤 文吾	教授(医学教育センター長)
		私立	5 自治医科大学	野田 泰子	教授(教務委員長)
			6 慶應義塾大学	門川 俊明	教授
			7 帝京大学	川杉 和夫	教授(医学教育センター長)
			8 北里大学	東原 正明	医学部長

【テーマ4:卒業生の質の確保】

グループ	モデレーター	区分		大学名	氏名	役職
⑦ (1号館8F 演習室)	田川 まさみ (鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科医 歯学教育開発セン ター長 教授)	国立	1	東京大学	栗原 裕基	教授(医学部教務委員会委員長)
			2	神戸大学	苅田 典生	特命教授(教務学生委員長)
			3	島根大学	大谷 浩	医学部長
			4	長崎大学	安武 亨	教授
			5	防衛医科大学校	塩谷 彰浩	教授(教務部長)
		私立	6	順天堂大学	檀原 高	教授
			7	川崎医科大学	和田 秀穂	教授(学長補佐)

グループ	モデレーター	区分		大学名	氏名	役職
⑧ (1号館8F 演習室)	瀬尾 宏美 (高知大学医学部 教 授)	国立	1	東京医科歯科大学	秋田 恵一	教授(医学科教育委員長)
			2	滋賀医科大学	伊藤 俊之	教授
			3	京都大学	小西 靖彦	教授(医学教育推進センター長)
			4	熊本大学	向山 政志	教授(医学科教育・教務委員会副委員長)
		私立	5	東京医科大学	平山 陽示	准教授(卒後研修センター長)
			6	東京慈恵会医科大学	池上 雅博	教授
			7	藤田保健衛生大学	長崎 弘	准教授(教務委員長)

【テーマ5:分野別評価を通じたPDCAサイクルの確立】

グループ	モデレーター	区分		大学名	氏名	役職	
⑨ (1号館8F 演習室)	高松 研 (東邦大学医学部長)	国立	1	東北大学	加賀谷 豊	教授(医学教育推進センター)	
			2	富山大学	関根 道和	教授	
			3	名古屋大学	安井 浩樹	准教授(学部教育委員会委員)	
			4	鳥取大学	河合 康明	医学科長	
		公立	5	福島県立医科大学	永福 智志	教授(医学部教務委員会委員長)	
			私立	6	聖マリアンナ医科大学	加藤 智啓	医学部長
				7	川崎医科大学	栗林 太	教授(学長補佐)

グループ	モデレーター	区分		大学名	氏名	役職	
⑩ (1号館8F 演習室)	鈴木 利哉 (新潟大学総合医学 研究センター 教授)	国立	1	福井大学	松岡 達	教授	
			2	浜松医科大学	梅村 和夫	教授(医学教育推進センター長)	
			3	徳島大学	苛原 稔	医学部長	
			4	琉球大学	高山 千利	医学科長	
		公立	5	大阪市立大学	鱒淵 英機	教授(医学部医学科教務委員長)	
			私立	6	獨協医科大学	増田 道明	教授(医学部教務部長)
				7	埼玉医科大学	土田 哲也	教授(副学長)
				8	近畿大学	伊木 雅之	医学部長

平成27年度医学・歯学教育指導者のためのワークショップ グループ別名簿

○歯科大学・歯学部

(敬称略)

【テーマ1: アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜の在り方】

グループ	モデレーター	区分		大学名	氏名	役職
⑪ (1号館8F 演習室)	東 みゆき (東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研 究科 教授)	国立	1	大阪大学	天野 敦雄	歯学部長
			2	鹿児島大学	松口 徹也	歯学部長
			3	明海大学	草間 薫	教授(学生部長)
		私立	4	昭和大学	宮崎 隆	歯学部長
			5	日本歯科大学新潟生命歯学部	佐藤 利英	准教授(教務部副部長)
			6	愛知学院大学	千田 彰	教授(副学部長)

【テーマ2: 統合教育を行うための入学時から卒業時までのトータルカリキュラムデザインの在り方・実践】

グループ	モデレーター	区分		大学名	氏名	役職
⑫ (1号館8F 演習室)	小野 和宏 (新潟大学歯学部 教 授)	国立	1	岡山大学	窪木 拓男	歯学部長
			2	広島大学	菅井 基行	歯学部長
			3	徳島大学	河野 文昭	歯学部長
			4	九州大学	高橋 一郎	教授(副研究院長)
		私立	5	日本大学松戸歯学部	河相 安彦	教授(学務担当)
			6	松本歯科大学	富田 美穂子	教授(教育学習支援センター長)
			7	福岡歯科大学	岡部 幸司	教授(学生部長)

【テーマ3: 臨床実習の改善・充実】

グループ	モデレーター	区分		大学名	氏名	役職
⑬ (1号館8F 演習室)	近藤 尚知 (岩手医科大学歯学 部 教授)	国立	1	北海道大学	横山 敦郎	歯学部長
			2	新潟大学	小林 正治	教授(副病院長)
			3	北海道医療大学	長澤 敏行	教授(臨床実習委員長)
		私立	4	奥羽大学	山崎 信也	教授
			5	日本大学松戸歯学部	小宮 正道	教授(副病院長)
			6	日本歯科大学生命歯学部	羽村 章	生命歯学部長
			7	大阪歯科大学	有田 憲司	教授

【テーマ4: 卒業生の質の確保】

グループ	モデレーター	区分		大学名	氏名	役職
⑭ (1号館8F 演習室)	角館 直樹 (九州歯科大学歯科 医学教育センター 教 授)	国立	1	東京医科歯科大学	森山 啓司	歯学部長
			2	広島大学	二川 浩樹	教授(副学部長)
			3	東京歯科大学	片倉 朗	教授(教務副部長)
		私立	4	日本大学歯学部	磯川 桂太郎	教授(学務担当)
			5	朝日大学	永山 元彦	教授
			6	福岡歯科大学	石川 博之	学長

【テーマ5: 分野別評価を通じたPDCAサイクルの確立】

グループ	モデレーター	区分		大学名	氏名	役職
⑮ (1号館8F 演習室)	平田 創一郎 (東京歯科大学 教授)	国立	1	東北大学	高橋 信博	教授(副学部長)
			2	長崎大学	澤瀬 隆	歯学部長
		公立	3	九州歯科大学	日高 勝美	教授(副学長)
			4	岩手医科大学	八重柏 隆	教授(教務委員)
		私立	5	神奈川歯科大学	菅谷 彰	教授(副学長)
			6	鶴見大学	小林 馨	歯学部長

3. グループ別セッション

<イントロダクション>

東京慈恵会医科大学教育センター長 福島 統氏

それでは、皆様はこのテーマで既にグループも分かれていますので、御存じだと思いますけど、ここは押さえてねというところだけちょっと御説明をしたいと思います。

そのテーマについての補足説明で、一番最初にアドミッションポリシーを踏まえた入学
者選抜の在り方ということですが、ここでちょっと考えていただきたいのは、その入学者
選抜の考え方、そのアドミッションポリシーですけれど、それはもちろんカリキュラムポ
リシーとかディプロマポリシーとつながってなければならぬんですけど、今、文部科学
省の方で言っているのは、アドミッションポリシーは、ただこういうものだって概念を示
すだけじゃなくて、どういうふうに測るのかということも含めた上でアドミッションポリ
シーだというふうにしていますので、今回はアドミッションポリシーをどう設定するか、
そして、設定したものをどう測るか、その次があります。その次は、それで測って入れた
学生たちが1年生に上がってくるわけですから、特に大学の初年次教育というものとどう
つなげていくのかという、その流れでお考えいただくという形でお願いしたいと思います。

医学部が2グループあって歯学部が1グループありますから、このアドミッションポリ
シーのことだけでも3グループあるので、どのようにそのグループが発展されるかは、そ
のグループで自由に発展していただければというふうに思っております。

2番目のテーマが統合教育を行うための入学時から卒業時までのトータルカリキュラム
デザインの在り方ということですから、ここでまた初年時教育が関わってきます。いわゆる
教養教育というか総合教育というところから始まっていくと思いますけれども、そこか
らカリキュラムをどのように作っていくのか。その先にはもちろん卒業時のアウトカムが
あると思うので、その初年時からアドミッションポリシーを踏まえた上で選抜をした上で、
さあ、卒業時のアウトカムにどのように到達するのかということを考えていただくわけ
ですけど、その中で、やはり統合カリキュラムというのはいいところと悪いところともち
ろんあると思いますけれども、カリキュラム全体でアウトカムを考えたときには、同一学
年での連携、学年を超えた連携ということをやりやすくするものでもありますので、そう
いう意味での統合カリキュラム。統合カリキュラムのことを考えるときには、学年間、学
年を超えての連携ということを考えていただきたいんですけど、そのときに、やはり初年
時から考えていただくということをお願いをしたいと思います。

そして、ここにはもう一つ、もし余力があれば、是非、学生支援という考え方をちょっと入れていただければと思います。これも特に4年制大学では問題になっていますけど、1年生、2年生のところでの学生支援が実は卒業生の質を大きく変えるというエビデンスがもう4年生大学では証明されています。医学部はどうしてもこの1年生、2年生のところの辺りの学生支援というのが弱いと言われていまして、もしグループの中でこういう話がありましたら、また御発表いただければと思います。

3番目のテーマは臨床実習の改善・充実ということですが、実は昨日、医学教育振興財団の医学教育指導者フォーラムがありまして、そのメインテーマは「多様な臨床実習の場を求めて」ということで、タイと、それから、オーストラリアのフリンダースの話があつて、大変興味深かったわけですが、実際には学生は患者さんから学ぶので、ウィリアム・オスラーもそのようなことをおっしゃっているようで、そういう意味で、臨床実習の場をどうやって確保するのか、どういう目的で臨床実習の場を確保するのかということ、を是非考えていただいて、特にアキュート・ディジーズだけでなく、難治性疾患だとか慢性疾患だとか生活支援といった臨床実習ということも考えなければならぬだろう。

そうすると、学内だけの臨床実習の場でいいのかとすると、学外という考え方が出てくる。じゃあ、学外という考え方が出たときに、どうやって臨床実習の学習成果を担保するのか。まさにPDCAの中でいうIRという話になっちゃいますけれど、どういうふうに学生の学習履歴を管理していったら、本当に100人とか110人の学生がちゃんと学べたねということ、をどう教育の質として保証していくのかということも考えていく。そのときには、ポートフォリオだとか、それから、それこそeポートフォリオとか、ICTをどう活用していくのかということも考えていかなければならないことだと思います。

またつながっちゃうんですけど、臨床実習が終われば、これは卒業時アウトカムに到達しているのかどうかということが問題になりますので、卒業生の質の保証、言っちゃ悪いですけど、国家試験は知っていることだけしか測っていないわけで、知っていることとできることとは違うわけです。知らずにやったら犯罪ですけど、でも、知っていることだけを評価するのではなくて、それを実際に患者診療というものに応用できるという能力を測らなきゃいけない。

そういう意味で、医師、臨床研修にスムーズに入っていく、そういう能力をどうやって担保していくのか、どうやって測っていくのかということ、をこの4番目の卒業生の質の保証ということで考えていただくわけですけど、今はやりの言葉で言うとパフォーマンス評

価ということになります。そういったことをちょっと御議論いただければ。

そうすると、どこの学校を卒業しても、この能力があるねという形で卒後臨床研修にスムーズに入っていって、卒後臨床研修での基本的診療能力の獲得ということが達成できるだろうというふうに思うので、そういう意味での試験の方法というか評価の方法、また、その評価の方法も、ただ一発評価するだけじゃなくて、どうやって段階的に伸ばしていくかということもお考えいただければと思います。

最後の分野別の評価に関しては、今、事例発表が医学部と歯学部と両方からございましたので、特に私の方から申し上げることはございませんけれども、内部質保証ということはどうやって、大学の責任として、ソーシャルレスポンシビリティとして、アカウントビリティとして、どのように大学が構築していくかということは非常に重要なことだと思いますので、是非そのことについて御議論いただければというふうに思います。

それで、一応これが私の方からの補足説明でありますけれど、あとは実際にこれから8階の演習室に御移動いただいて、8階にスタッフがおりますので、御自身のグループをもう一度御確認を頂いた上で、グループディスカッションの方にとっております。